

## 研究協議のテーマ

小松郁夫氏 講話, 北村朋子氏講演「デンマークの教育と日本の教育のこれから」渡邊恒文氏講演「世界の教育事情」から日本の教育の方向性、世界の教育事情を理解し、より広い視野でこれからの教育のあり方を考え、国際社会の中で未来を生きる二宮の子どもたちのための学校づくりに生かす。

## 2 要点【講話、講演の要点】

## ① 小松郁夫氏 講話『新しい「二宮町型」義務教育の創造』

義務教育段階で 15 歳までに子ども達に学んで欲しい、或いは力をつけさせてあげたい内容の議論が、小中一貫教育の一番の中身。小中一貫という器を上手に活用し二宮町が考える義務教育をしっかりと保障していくことが大事である。

例えば二宮学習という形で地元をしっかりと学び、子ども達なりの新しい考え方を学んでいくことが大事。社会の形成者として若者をどう育てていくのか、国にとっても大事だが地域社会にとっても大事である。二宮町で育つ人達が二宮町を支え、発展させてくれる人材になるためには、どういう学びを保障してあげたらいいのかを考えていく必要がある。学校は教育環境としては優れたシステムである。これから作る学校施設は子どもだけのためのものではなくそこで大人も学べるような機能を持たせてもいいと思う。

## ② ニールセン北村朋子氏 講演「デンマークの教育と日本の教育のこれから」

デンマークは民主主義に重きを置いている国で子育て支援も非常に充実している。義務教育から大学、大学院までは無料。

小中学校は、一貫校で0年生から9年生までの10年間で義務教育になっている。義務教育のゴールは、すべての生徒の最大の可能性を引き出すこと。一人一人の成長やスピードや特性を尊重した学び、順位とか成績至上主義ではない学びで誰もが居場所が持てることを重視している。生徒の社会的背景に学業成績が左右されない。先生と子どもで学びを作り上げている。世界で今日起こっていることをそのまま授業にするなど、生きた学び、リアルタイムの学びを大切にしている。

国の目指す方向性と教育内容が一致していて学びと仕事が直結している。国が目指す方向性に基づいて必要な教育が細分化されている。

生徒、教員たちの幸せなくして、良い教育はありえないということが前提になっていて人格、人権が非常に重視されている。自尊心と自立心、自己肯定感を高めるための学び。自尊心は自分が存在していることの尊さを意識し、育てることが非常に重要で力を入れている。幸せ第一主義で、幸せになるため行うことを後回しにしない。今が幸せであることを大事にする。

多様な人や考え方の違いを否定せず受入れる。いろいろな立場を知り、物事や人生を俯瞰で見る練習をする。「競争」ではなく「共創」が大切にされている。

## ③ 渡邊恒文氏 講演「世界の教育事情」

OECD の資料 (Education at Glance 2014) のデータを3つの視点で読み解いたもの

## ● 言語学教育について

- ✓ 世界での主要な言語は植民地や経済的な要因から広がったものが多い。また、英語圏でも地域ごとに異なる表現や単語があり、それが異なる国や地域での生活に影響を与えている。
- ✓ 外国で働くことや留学することが、言語学習における大きなモチベーションとなることがあ

る。

- ✓ 日本が英語で学ぶことが難しい環境にあるものの、近年インターネットを通じて英語の情報が容易にアクセスできるようになっていることから、英語スキルの重要性は高まっている。
- ✓ 言語学習が個々の国や文化において、国際的な情報やコミュニケーションの面で重要な役割を果たす。

● ICT 教育について

- ✓ 日本では、一部の人は十分な ICT スキルを持っているが、多くの人が最低限の ICT スキルしか持たず、対応能力が不足している。
- ✓ ICT スキルは仕事の効率化だけでなく、情報収集にも影響を与えており、特に家庭での ICT 使用頻度が低いことが浮き彫りになっている。
- ✓ 安全性への懸念や自己責任の文化が ICT の利用に影響を与えている可能性があり、安全な利用方法を教育する必要がある。
- ✓ 課外における、マイナンバーカードやスマートフォンの活用・成功例を考えると、日本が進むべき方向についての議論が必要である。

● 学校教育について

- ✓ 教育制度の多様性: 日本の学校教育は他国と比較して、学校制度や進学・職業教育の違いがあり、他国では職業に特化したプログラムが多い。
- ✓ 大学の多様性: 日本の大学は一般教育に重点を置いている一方で、海外の大学はより職業に結びつくプログラムが多い。
- ✓ 進学率と労働状況: 日本の進学率が上昇している一方で、高学歴者は比較的長期にわたり勉強している。ただし、失業や非正規雇用者の増加も課題であり、他国との差異が見られる。
- ✓ 教育の効果と学歴: 高学歴者は健康状態が良好であり、ボランティア活動への参加や政府に対する発言権が増加している。
- ✓ 学級の規模と教育効果: 学級の規模が大きくなると、教育効果が低下する傾向があり、特に問題行動の生徒が多い場合は満足度が低くなる。日本は学級規模が大きい傾向が見られる。
- ✓ 授業時間と教員労働時間: 日本は年間の授業時間が多い一方で、教員が純粋に授業に費やす時間は他国に比べて少ない。課外授業や活動も国によって異なり、追加料金が必要な場合がある。

3 提言に盛り込みたいこと

- ① 義務教育は一人一人の幸せに資するもの、持続可能な社会の創造に資するものとして責任をもって進めていかなければならない。
- ② 国際化が進む未来の社会を生きる子どもたちに必要な教育は、世界的な視野を持って構築されなければならない。

4 参照先 令和 4 年度第 1 回議事録 令和 4 年度第 3 回議事録

担当者氏名 ( 渡邊恒文 山内みどり 古正栄司 原 道子 )